

e-dream-s 通信

No.39 発行：2003年11月9日 特定非営利活動法人 イー・ドリームズ

目次

1. 土佐堀三人男 辻荘一 p.2
2. ベトナム考：名は体を表すか？ 井川好二 p.4
3. “週末起業”のすすめ 中川房代 p.11
4. カメルーン・ピグミーとの出会い（その4） 山田昌子 p.13
5. @aglance 教材作成・収集プロジェクトより 道面 和枝 p.17
6. お知らせ p.18



踊りながら歌うピグミーの子供たち。(撮影：山田昌子)彼らの生活ぶりなど詳しくは、p.13「カメルーン・ピグミーとの出会い（その4）」をご覧ください。

土佐堀三人男

辻莊一

2003年11月5日水曜日午後7時、今にも泣き出しそうな、と凡庸な作詞家なら言いそうな曇り空の下、怪しい三人の中年男が大阪土佐堀のテンブル大学の一室に集まり、なにやら話し合っている。男たちは井川顧問、元YMCA講師 Gregg Kennerly、それに私である。Gregg と私はそれぞれ書類に屈みこみ、井川顧問は愛用の Powerbook の画面を覗き込んでいる。

この三人が何をしているのかと言うと、ECAP2003 の参加者が長時間のリサーチとディスカッションの末に韓国の先生方と書き上げた英文の、内容と英語の検討をしているのである。原稿はすべて Gregg によって1度は書き直されているが、さらなる書き直しが必要だと判断したのである。

すべてGreggに任せることも可能ではあったが、時間がないのでなるべく短時間で仕上げる必要があった。そこで井川顧問の発案により、集中力が持続し、アイデアも豊富に出る三人の合議制という形になったのである。

すでに教科書の出来上がりイメージはかなり固まりつつある。

- (1) 教科書の構成は、三か国語の原稿を混在させず、各国語ごとに3つのパートに分ける
- (2) それぞれに注と写真・図版をつける。写真と図版は本文中に入れる。
- (3) 注については脚注が良いか各テーマの本文の後にまとめる方が良いか今後決定する。
- (4) 写真・図版については、日本についても韓国についても知識のない読者を想定して各テーマごとに10点を上限として収集する。3国語版それぞれ想定読者が違うので、それぞれ若干違う構成の写真・図版を使う例えば「キムチとタクアン」という記述があるばあい、
英語版 キムチとタクアン両方の注と写真
日本語版 キムチの注と写真
韓国語版 タクアンの注と写真
というような構成になる。
- (5) テキスト内容の補足やより深い理解を助ける参考事項を集めた“教師向けの資料集(日本語)”をウェブ上に作ることを検討する。うまく行けば、韓国語版・英語版も作る。

スケジュールとしては、11月中には英語原稿の決定稿を完成させ、12月中に日本語版を完成し、さらに注と図版も準備し出版社との本格的な打ち合わせに入る、という段取りである。

さて、その日のセッションは、あわよくば全部やっしまおうと言う当初の目論みはずれ、12テーマ中、わずか2テーマを仕上げただけで時間切れとなった。結構手間と時間がかかるが、やむを得ない。記念すべき ECAP の最初のテキストはできるだけ良いものであって欲しい。

三人でビルの外に出ると、果たして雨がポツポツ降り出している。三人はちょっと首をかがめながら近くのレストランまで早足で歩きはじめた。次のセッションは17日である。

ベトナム考：名は体を表す¹か？

井川好二

青磁の器に入った「九条葱²の鴨蒸し」が運ばれてきて、カウンターの冷酒がすすむ。料理が来る度にもっと日本酒が飲みたくなるのは、寒さに向かう季節に、身体が反応しているせいかな？

「センセ、ベトナムへは、いつ行きはるんですか？」

「年末や。大晦日の朝、帰ってくる」

「あらあら、ホンマにギリギリまで」

「しょうがないやろ、そこしか日程が取れへんねんから」

「お仕事？ご苦労様です」

年末に、来年のベトナムでの ECAP の下見に行く。実行委員会のメンバーで、ハノイとホーチミンの両都を巡り、ハロン湾³やメコン⁴デルタにも足を伸ばす、いかにも欲張りな計画ではある。しかし、その欲張りな下見なしには、本番が上手く行

¹なはたいをあらわす【名は体を表す】名というものは、そのものの性質や中身などをうまく表している場合が多いということ。「体」はものごとの本質、実体の意。[故事ことわざ辞典]

² 京都では、ねぎと言うとこの九条葱のことを言います。九条葱のおいしさの特徴でもあるこのねばりは、底冷えする京都の冬が一番美味しい時期です。

<http://www011.upp.so-net.ne.jp/gokan-shokuraku/reshipi/kuzuni.htm>

³ 降龍伝説の地、世界遺産ハロン湾：ハ(=降りる)、ロン(=龍)という地名は、その昔、隣の大国・中国からの度重なる侵略(日本で言う「元寇」など)に悩まされていた時代、この地に龍の親子が降り立ち、口から炎を吹いて敵を打ち破り、さらには吹き出した宝玉が数々の奇岩となって海面に突き刺さり、その後も長きに渡って外敵の侵入を防いだとの伝説から由来したもの。1,500 平方キロメートルにもわたる広大なエリアに、石灰岩から成る大小 3,000 もの島々が奇峰の如くそそり立つその神秘的な景観は、まさに自然の織り成す驚異であり、その水墨画にも似た世界から「海の桂林」とも呼ばれる。1994 年、ユネスコから世界遺産(自然遺産)に指定された。(ハノイ近郊) <http://www.pitt.co.jp/vietnam/study/030401.html>

⁴ メコン【Mekong】東南アジア第 1 の大河。中国青海省南部、チベット高原東部に発源、山系の走向に従って南東流、のち南流、中国雲南省およびラオス・タイの境を流れ、カンボジアを貫流、ベトナム南部で南シナ海に注ぐ。下流のデルタ地帯は水田地帯として重要。長さ 4350 キロメートル。[広辞苑第五版図版付き]

くはずはない。

「漢字で『越南⁵』って書いて、ベトナムって読むらしい」

「へえ～、ベトナムって漢字やったんですね？」

「今はアルファベットやけど、もともと漢字文化圏やから」

「それで、越⁶ですか」

「そう越南や」

「いかにも中国から見ましたって感じ、ですね。山を越した南は、ベトナム」

日本の地名を考えてみても、「越」は、京都から山を越した越前⁷、越中⁸、越後⁹。大和政権、あるいは朝廷にとって、長い間、越の国々は異境であったのだろう。もっとも、日本の場合、京から北へと向かうが、ベトナムの場合は、中華から南へ下がる。しかし、「文明の影響下にある異文化」と云うイメージは共通であろう。

云うまでもなく、ベトナムは、朝鮮半島とならぶ、中華文明の優等生。そう云う意味では、劣等生とはいえ、同じ漢字文化圏の日本人には、分かりやすい国なのかもしれない。古くは、「安南¹⁰」と云った。それが「南方の安寧¹¹」を意味すると解説されなくても、字面で想像がつく。

司馬遼太郎氏は、朝鮮民族とベトナム民族を中国化学習の優等生と言ったが、私はそれに賛成である。今日、ユエにある - 戦乱でこわれてしまっただろうか
・ 王宮の南門とソウルの南大門の近さに較べれば、距離的にはいくらか離れて

⁵ 【越南】エツナン 地域名。また、国の名。インドシナ半島東部にあたる。今のベトナム。「安南(アンナン)」といったこともある。ベトナムは、越南をベトナム語で読んだ発音。[漢字源]

⁶ 越{名}江南沿海地方にいた民族とその国の名。多くの種族があり、百越ともいわれた。そのうちの於越は春秋時代の越をたてた。秦シン・漢代から、一部は福建にはいり、江南の山間に残ったのは「山越」と呼ばれた。また、その一部である「南越」は、のちのベトナム(越南)人と関係がある。[漢字源]

⁷ 旧国名。今の福井県の東部。古名、こしのみちのくち。[広辞苑第五版図版付き]

⁸ 旧国名。今の富山県。こしのみちのなか。[広辞苑第五版図版付き]

⁹ 旧国名。今の新潟県の大部分。古名、こしのみちのしり。[広辞苑第五版図版付き]

¹⁰ 【安南】アンナン (1) 地名。インドシナ半島東岸の中部のこと。(2) 国名。今のベトナム。後漢から唐代までは中国に、清(シン)代末期はフランスに支配された。唐代に、安南都護府が置かれた。安南はそれに由来する。越南。[漢字源]

¹¹ 【安南】ベトナムに対する外国からの呼称。またはフランス領インドシナ時代の中部ベトナムをさす。本来は南方の安寧を意味する中国語であるため、現在ではまったく用いられない。[Super Nipponica 2003]

いないカンボジアのアンコール・ワットとユエは、文化的に遠いという印象を誰もが受けるはずである。[三浦朱門(1985)「東南アジアから見た日本」中公文庫 pp. 34-35]

中部にある古都ユエ¹²にも足を運んでみたいが、今回は時間がないのが、至極残念。司馬¹³が70年代に行った、ホーチミン市のフランス料理店には是非行ってみたい。

「世界中いろいろ行ってはるから、ベトナムも何回もて、思てましたけど」

「いやいや、今度がはじめて」

「そうですか」

「未だ見ぬ国を、いろいろ想像するのが嬉しい」

「東南アジア」と云う呼び名自体が、「越」的とも云えて、もっとも、こっちの方は、中国からみてではなく、英国ロンドンから見ての「東南」である。極東も、ロンドンから見て東の端を意味する。

三浦朱門¹⁴によると、多彩な東南アジア諸国を結ぶ特徴は、以下の3つ：

- (1) 米と魚と鶏を食べる。
- (2) 歴史上、インドの東進、中国の南進、ヨーロッパの植民地化の影響を受けた。
- (3) 第2次世界大戦中、日本に占領された。

であると云う。

この伝で云えば、こうした東南アジア共通の特徴に、中国色をすこし多目に加味して、フレンチをトッピングすれば、ベトナムの完成？そう単純化して考えるのは聊か危険かもしれないが、大きく外れているとも思えない。

「ベトナムって、美味しいもの、仰山あるそうですね」

「今、結構、ブームや」

¹² フエ【Hue・順化】ベトナム中部の都市。フエ川の左岸、河口から16キロメートル。19世紀、グエン(阮)王朝の首都。人口21万9千(1992)。ユエ。[広辞苑第五版図版付き]

¹³ 司馬遼太郎(1996)「人間の集団について ベトナムから考える」東京：中公文庫

¹⁴ 三浦朱門(1985)「東南アジアから見た日本」東京：中公文庫

「ホー¹⁵とか、ゴイクン¹⁶とか」

「らしいな」

「本場のグルメ旅ですね、センセ。羨ましいわ」

「インドシナ¹⁷」と云う呼び方もあった。広義では、東南アジアの半島全域のことを云い、狭義では、旧フランス領であったベトナム、カンボジア、ラオスを指す。インドシナとは、英語では Indochina、つまりインドと支那の組み合わせ。

たとえ、東南アジアの歴史が、三浦朱門の云う通り、「中国の南進」と「インドの東進」を基軸に展開してきたとしても、半島東南アジア、特に、旧仏領インドシナの住民にとっては、自らが住む地域を、他の地域にある文明圏の名前で呼ばれるのは、気持ちの良いものではないだろう。例えば、歴史的に、中国とアメリカの影響を大きく受けた日本、韓国、台湾の極東3ヶ国を、「Ameri-China」あるいは「Chinamerica」と呼ぶようなものである。

「案外知られてないけど、ベトナムって、歴史上、日本と結構関係があったんや」

「へエーエ、すごく離れてますのにね」

¹⁵ホーは米を原料にしたベトナムのうどん。大きめの器にかるく湯通した麺を入れ、牛骨スープをたっぷり注ぎ、モヤシ、ネギ、香草をのせる。

http://www.nicetem.com/food/foods_nood1.html#ho

¹⁶ 生春巻 Raw Spring Rolls ライスペーパーともいう。ベトナム料理の一つで、若い女性たちに人気のメニュー。中華料理の「春巻」は小麦粉で作った皮に、筍などの野菜を細く切った具を入れて巻き、油で揚げたもの。ベトナム料理の春巻は、米の粉で作った丸い直径30センチぐらいの乾いた皮に巻いて、そのまま食べる。注文すると皮と具とが運ばれてくる。円形の皮に霧吹きで湿らせて柔らかくする。そこにレタス、プン(麺)、キュウリ、豚肉、しそなどを乗せ、軽く皮を畳んでからニラと海老を乗せて、一気に巻く。もちろん、でき上がった品を注文することもできるが、料理の仕上げ部分を客に委ねることで、食べる楽しみだけでなく、作る楽しみも提供している。

2002/05/26 (C)亀井肇

生春巻きは、ベトナムではとてもポピュラーな食べ物です。家庭でも、街角の屋台でもビールを片手に生春巻きでワイワイ、といった姿をよく見かけます。レタス、もやし、豚肉、春雨、そして透けて見える海老が、ピーナッツと味噌のたれと絶妙にマッチして一つの味になる、ベトナム料理の傑作といえるでしょう。

<http://www.akabanebashi.com/pages/vietnam/viet1a/viet1a.html>

¹⁷インド シナ【印度支那】(Indo China) アジア大陸の南東部、太平洋とインド洋の間に突出する大半島。インドと中国の間に位置するからいう。普通ベトナム・ラオス・カンボジア3国(旧仏領)を指し、広義にはタイ・ミャンマーをも含む。[広辞苑第五版図版付き]

8世紀、奈良朝に、遣唐使として唐へ渡った安倍仲麻呂¹⁸が、長年、玄宗皇帝¹⁹に仕えた後、望郷の念止み難く、ようやく帰国の途に着いたは良いが、乗った船が沖繩に着いた後、嵐に流され、到着したところが当時の安南、今のベトナム。その後、苦勞を重ねて長安へ帰り、今度は「節度使」に任じられ、再びベトナム安南都護府²⁰へ。仲麻呂はついに帰国することはなかった。

「3回目の元寇²¹が、日本へ来なかったのは・・・」

「はい？」

「ベトナムが蒙古軍に、しっかり抵抗してくれたからやと云うけど」

「へえ～、そうでしたんか。ベトナムさん、大きに！」

下って近世初頭の朱印船貿易²²の時代になると、京都の豪商角倉了以²³などが、東

¹⁸ あべ の なかまろ【安倍仲麻呂】(「安倍」とも) 奈良時代の貴族。716年(霊龜2)遣唐留学生に選ばれ翌年留学。唐名、朝衡・晁衡。博学宏才、玄宗皇帝に寵遇され、また海難に帰国をはばまれて在唐五十余年、その間節度使として安南に赴き、治績をあげた。唐の長安で没。「天の原ふりさけ見れば春日なる三笠の山に出でし月かも」の歌は有名。(698～770)[広辞苑第五版図版付き]

¹⁹ げんそう【玄宗】唐の第6代の皇帝。睿宗(えいそう)の第3子。諱は隆基。初めは開元の治と呼ばれたが、晩年楊貴妃を寵愛するに及び、安史の乱が起り、蜀に逃れた。乱後、長安に帰って没。明皇帝と諡おくりな。明皇。(在位712～756)(685～762)[広辞苑第五版図版付き]

²⁰ アンナン とごふ【安南都護府】唐の六都護府の一。622年ハノイに置かれ、679年この名称となる。860年、63年の南詔の攻撃により消滅。[広辞苑第五版図版付き]

²¹ げん こう【元寇】鎌倉時代、元の軍隊が日本に來襲した事件。元のフビライは日本の入貢を求めたが鎌倉幕府に拒否され、1274年(文永11)元軍は壱岐・対馬を侵し博多に迫り、81年(弘安4)再び范文虎らの兵10万を送ったが、二度とも大風が起って元艦の沈没するものが多かった。蒙古襲來。文永・弘安の役。[広辞苑第五版図版付き]

²² 朱印船貿易【しゅいんせんぼうえき】日本より東南アジア地域に渡航して行なった貿易。1601(慶長6)徳川家康が安南・呂宋ルソンに朱印船制度の創設を伝えた。160435(慶長9 寛永12)356隻が当初19地域に、17(元和3)以降は東京トンキン・交趾コーチ・柬埔寨カンボジア・暹羅シャム・呂宋・高砂の6地域に渡航した。105名の朱印船貿易家の中には島津・松浦・有馬ら大名をはじめ、日本人商人、在留中国人・ヨーロッパ人が含まれる。輸入品は生糸・絹織物・綿織物・皮革類・蘇木(蘇芳すおう)・鉛・錫等、輸出品は銀・銅・銭・硫黄・樟腦・米穀等。35年日本船海外渡航の全面禁止により終焉。[岩波日本史辞典]

²³ 角倉了以【すみのくらしらうい】1554 1614(天文23 慶長19.7.12) 安土桃山・江戸初期の京都の豪商、朱印船貿易家。医者吉田宗桂の長男。幼名与七。諱は光好。1572(元龜3)土倉どそう経営を継ぎ、1603 11(慶長8 16)に朱印船(角倉船)で安南・東京トンキ

京(トンキン)²⁴、交趾(コーチ)²⁵、広南(カンナン)²⁶、占城(せんジョー)²⁷などと云うベトナムの各地域まで出かけて活躍する。ホイアン²⁸やツーランには、日本人町が栄えたと云う。むろん、その後の鎖国政策²⁹で、朱印船貿易は中止され、日本人町も崩壊する。

第二次大戦中には、日本軍による旧仏領インドシナ進駐³⁰もあった。最近では、ベトナムブームで、多くの日本人観光客が訪れる地でもある。

「教え子が二人も、ベトナムへ留学してたんやで」

「へーえ、ベトナム留学ですか。何か、優雅ですね」

こうした出発前の印象がどこまで正しいのか、間違っているのか、検証するのも、

ン貿易に従事する一方、06年嵯峨の大堰川、翌年富士川の疎通や高瀬川の運河開削(1114年)を行なった。子の素庵、孫の玄紀らも貿易や河川支配に活躍。[岩波日本史辞典]

²⁴ トンキン【Tonkin; Tongking・東京】ベトナム北部の古称。面積約11万平方キロメートル。中心都市ハノイ。[広辞苑第五版図版付き]

²⁵ こうし【交趾・交趾】カウ 現在のベトナム北部トンキン・ハノイ地方の古名。前漢の武帝が南越を滅ぼして交趾郡を設置。[広辞苑第五版図版付き]

²⁶ クアンナム【広南】(Quang nam) ベトナム中部の古称。16世紀後半、安南のゲン(阮)氏がこの地に拠り、ハノイに拠る鄭氏と勢力を争った。カンナン。[広辞苑第五版図版付き]

²⁷ チャンパ【Champa・占城・占婆】インドシナ半島南東部のチャム人の建てた国。2世紀末に独立。中国では古く林邑と称し、唐末から占城と称。海上交通路の要衝にあたり、中継貿易で繁栄。朱印船貿易で日本の商人も多数渡航。17世紀末に滅亡。チャボ。[広辞苑第五版図版付き]

²⁸ ホイアンは、桃山後期から江戸前期にかけて盛んだった朱印船貿易で、日本の商人が多く訪れた港町として有名で、日本人町も作られていた事も広く知られています。

<http://www.gen-emon.co.jp/travel/vietnam/vietnam-3-2.html>

²⁹ さ こく【鎖国】国が外国との通商・交易を禁止あるいは極端に制限すること。17世紀から19世紀中頃まで東アジア諸国は鎖国政策をとった。江戸幕府は、キリスト教禁止を名目として、中国・オランダ以外の外国人の渡来・貿易と日本人の海外渡航とを禁じた。開国。[広辞苑第五版図版付き]

³⁰ 仏印進駐【ふついんしんちゅう】日本が援蒋ルート遮断、南進基地の設定、資源確保などを目的に仏印(仏領インドシナ)に軍隊を進駐させた事件。1940年、フランスがドイツに降伏すると日本軍部内に武力南進論が台頭、9月三国同盟の締結を前に、仏側との交渉成立をまたぎ参謀本部と現地軍の判断で北部仏印への武力進駐を実施。さらに41年7月、日本は対英米戦準備のために、南部仏印に航空基地を設置することを仏側に要求、現カンボジアまで進駐した。この進駐を日本の武力南進とみた英米は石油等の全面禁輸を実施、両者の武力衝突は決定的なものとなった。[岩波日本史辞典]

初めて訪れる国ならではの、愉しみである。飲み続けた八海山のデカンタも、ちょうどなくなって、神輿を上げる潮時である。外は冷えこんでいるだろうが、気持ちはベトナム。どこか、長閑なのである。(Friday, November 7, 2003)

“週末起業”のすすめ

中 川 房 代

NPOに関わるようになって、経済や法律に興味を持つようになった。そうなった要因は、それまで、自分の人生にはおよそ関わりのない分野、不得意分野だと勝手に決めつけていて「食わず嫌い」なだけだったからなのかもしれないし、私自身が変わったことにあるのかもしれない。とにかく。最近、「起業」「インキュベーション³¹（起業支援）」「アントレプレナー（起業家）」などという言葉を知ると、“薔薇色の人生”が待っている気がして何だか胸がワクワクしてしまう。（要するに、言葉に酔ってしまっている私がミーハーなだけであるが。）

タイトルに惹かれて、最近『週末起業』³²という新書を読んだ。著者の藤井孝一さんは、自身も会社に勤務しながらの週末起業から始め、軌道に乗ったところで会社を辞め、独立開業した経験を持つ。その体験から“週末起業”を提唱³³している。本の表紙には、こうある。

「リストラされたらどうしよう」「老後の生活が気がかり」「今の仕事で喰っていけるのか」――。景気が冷え込む今、先行きに不安をおぼえている人は多い。そんな不安を解消する方法があった！それが「週末起業」。これは、会社に勤めながら、アフター5や休日の時間を利用してローリスクで“起業”するというもの。本書では、その魅力と方法を解説し、ビジネスパーソンが「こんな時代」を生き抜くための「複」業生活を提案する。

NPO や e-dream-s の活動も、ある種の“週末起業”ではないかと思うのである。

本には週末起業の醍醐味や税金講座などいろいろと書かれているが、その中で藤井さんが書いている「成功する週末起業までの考え方」を私なりにまとめてみる。

1. 「何故週末起業をしたいのか」を明確にする。できれば、具体的、かつ客観的な

³¹ 新規に事業を起す支援をすること。「孵化(ふか)」の意味から転じた経済用語。「国立国語研究所。第1回外来語言い換え提案（最終発表）」ホームページより
<http://www.kokken.go.jp/public/gairaigo/Teian1/Words/incubation.gen.html>

³² 藤井孝一（2003）「週末起業」東京：ちくま新書

³³ 「週末起業フォーラム」（<http://www.shumatsu.net>）を主宰。

指標で表現された目標を持つ。

2. 「どんな分野でビジネスを始めるか」を考える。分野の絞り込みは、「やりたいことは何か」「それが自分にできるのか」「時流に乗っているか」の順で考える。
3. 「何を商品にするか、売れそうな物は何か」(モノ、ワザ、知識・情報、人脈など)を考える。
4. 顧客対象を絞り込む。
5. 「商品をどのように売るのが」を考える。
6. 「ビジネスとして成立するのか」をチェックする。「自分ならではの商品」「希少価値がある商品」「オンリーワン」を目指す。
7. 情報機器やネットサービスを積極的に利用し、顧客の開拓や事業展開を支える。
(pp.96-125)

面白かったのは、3の商品の決定についてで、こんな例が書かれている。

趣味が魚釣りで、それをビジネスにしたい場合に、モノを売るのが(釣竿や釣り道具の販売)、ワザを売るのが(釣りの技術を利用した釣行代行業や場所取り代行業)、知識・情報を売るのが(釣り方に関する知識を利用した釣り教室や釣果速報の発行)、人脈を売るのが(釣り人や釣り船との人脈を利用した釣船手配業や釣り仲間のサークル運営)を考え、形を変えれば新しいビジネスを発案できるということ。また、自分の趣味に関して困っていることやあったらいいなと思うこと(例えば、釣り仲間が欲しい、釣り道具の修理をしてもらいたい)を、ビジネスで解決するアイデアを考えるということ。

上の1~7は当たり前と言えれば当たり前のことばかりで、特に目新しいことは何も書かれていない。また、これだけで起業ができるとは思えないし、成功するとも思えない。しかしながら、この本は、好きなことや夢を形にするために行動を起こすことへの勇気を与えてくれている。

確かに最初の一步を踏み出すことには大変な勇気が要ります。私もそうでした。最初は誰でも試行錯誤するでしょう。でも恐がる必要はありません。週末起業で失うものは何もないのです。今ある収入を失うわけではありませんし、大きな投資もしないのです。うまくいかなければ引き返せばいいのです。ですから、安心して最初の一步を踏み出して下さい。(p.204)

そうだね。だったら、やりたいことを思い切りしようよ。楽しいことを楽しくしようよ。計画や見通しをしっかりと持つという視点を忘れてはいけないことは肝に銘じつつ...

カメルーン・ピグミーとの出会い(その4)

e-dream-s 理事 山田昌子

しばらくお休みをいただいていたのですが、いよいよカメルーンツアー報告も最終回となりました。これまでの「カメルーン・ピグミーとの出会い」の内容を簡単におさらいしておきましょう-----中川さんと私は、昨年12月31日、首都ヤウンデからランドクルーザーで約半日のピンディから、デコボコの細道を数時間行き、案内人エサマ氏(註1)の別宅に着きました。集まってきた近所のピグミーの人達(註2)と大晦日の踊りを楽しみ、翌日は彼らとお別れの儀式をしました。さて1月1日、私たちは森で狩猟採集をしながら移住生活をしているピグミー族のところに行きます。はじまり、はじまり…

* * * * *



「ボナネ!」「ボナネ!」「ボナネ!」(「新年おめでとう」というフランス語)私たちのランドクルーザーが着くと、ピグミーの人々が集まってきた。エサマ氏の別宅からどこをどう通ったのか、手許に地図もなければ方向もわからない私には見当もつかなかったが、着いた場所は、森の中に、木の枝と乾いた葉っぱを集めて作った小さな家らしきものが3つあるだけだった。そして、狩猟採集をし移住生活をしている本物(?)のピグミーたちは、とにかく笑顔だった。ものの本によるとピグミーたちは小さいと聞いていた(註2)が、彼らは158cmの私より少し低いくらい、「小人」なんて表現はとても失礼だ。私はむしろその小柄のせいで、親近感がわいた。柄のシャツやTシャツ、綿のズボン、ワンピース、スカートを着ている。靴やゴムぞうりをはいている者もいたが、多くは裸足だった。言葉はわからないが、笑顔と握手、「ボナネ!」という言葉だけで、ナインティナインの岡村さんにそっくりの男性とすっかりうちとけた。家族を紹介され、一緒に写真を撮った。デジタルカメラで写った画像を見せると、「もう1枚!」とせがまれた。

しばしばピグミー族を訪れているマナさん(註3)の後について、家の中に入った。木の枝と乾いた葉っぱの家は、風や雨の日はどうやってしのぐのだろうと思わせるほど隙間だらけだった。夜になると、マリア蚊は容赦なく皮膚を攻撃するだろう。家の中には家具らしき物はなく、角に服らしきものが積んであり、木の枝で作った椅子らしきもの、調理に必要な用具があるだけだった。調理といっても、ドラム缶を切った物、枝で作った棚、その上に鍋や鍋の蓋などが置いてあるだけ。プラスチックのバケツやコーラの空き缶もあり、町から入ってくるものも少ないんや。近くの川の魚を食べると聞いたけど、毎日が飯盒炊爨みたい、大変やなあ！と思った。



そうこうしているうちに、エサマ氏が「セレモニーを始めよう！」と言った。総勢30名程の人々が小さな広場に集まってきた。幼い子供も、また小さな赤ん坊を抱いている女性もいた。エサマ氏が英語で「このピグミーは3家族が一緒に移住生活をしているんだ。魚など食べ物がないとよそへ移る。そう、あの人がこのキャンプの長だ」と紹介した男性は、年の頃は60位だろうか。まず、エサマ氏が、私たちからの贈り物である赤ワインを長に渡した。彼の一族から大きな歓声があがる。ヤウンデのスーパーで購入した紙パック入りの安いワインだった。長は、さっそく封をあけ、コップに注ぐと、近くの木の根元に撒いた。2杯目は自分が飲み、3杯目はエサマ氏に注いだ。これがピグミーの儀式的始め方だそうだ。

長が何やらスピーチをし始めた。言葉は彼らの言葉？フランス語？私にはよくわからない、それをエサマ氏が聞いて私たちに英語に直してくれる。「ようこそ、新年に外国の方も含めこのようなセレモニーが持てることは大きな喜びです。」私たちは歓迎されているようだ。ほっとする。

そしてエサマ氏のスピーチ。フランス語だ。ピグミーの人々は皆フランス語がわかるという。エサマ氏が小学校を設立する等、ピグミーの教育に力をいれてきたお陰なのだろうか。「皆さんを今後共援助していきたいです。」



長は言った。「私たちの暮らしは決して楽なものではありません。昔ながらの移住生活をやめていく者もいます。ご覧のとおり何も無い。でもピグミーとして自分たちの文化を守っていきたいのです。だから、少しでも快適な生活ができるように、援助してもらえるとうれしいです。今はベッドが欲しいと思っています。」

そして、訪問者ひとりひとりが自己紹介をし、簡単にスピーチをした。私は何を言ったのが半年以上たった今となっては全く覚えていない。でも英語で話す私たちの顔をしっかり見て、言葉がわからなくても一生懸命聞いてくれたピグミーの人達の表情は忘れられない。エサマ氏のフランス語による通訳を聞いて、時折、笑顔のみならず、歓声や拍手がわきおこった。中川さんの「ピグミーの子供たちがどんなふうにも遊んだり楽しんでいるのか、興味があります」という言葉を聞いて、その場ですぐに手をたたき拍子をとります人たち。正直びっくりした。その輪はまたたく間に広がり、セレモニーは歌と踊りに変わった。歌を歌いながら、腰をふりふり、踊り出す子供たちもいる。お母さんたちは、子供に「踊ってごらん」と促す。初めての外国人に緊張し泣き出す子供もいたが、私も一緒になって踊りたい衝動にかられるほどだった。

そしてお別れの時、握手と「ボナネ！」を何回繰り返したことだろう。両手を天に上げ、笑顔で送りだしてくれた人もいた。多くのピグミーの人たちは、手をたたき拍子をとって、また違う明るい歌を歌って、私たちのランドクルーザーまで送ってくれた。「ボナネ！」

ピグミーの生活は決して楽ではない。私たちが1、2時間一緒にいただけではその困難さは十分にはわからないだろう。が、彼らの明るさ、陽気さ、人なつっこさは、ピカーだった。

ピグミーの人のみならず、カメルーンで出会った多くの人は明るく陽気だった。そして、肌の色が違っても、私はアジアと共通する何かがあるような気がしている。それが何か、今はわからない。たった1、2週間の滞在でわかる程アフリカは小さい土地ではないとも思う。

いつかもう一度訪れて、それが何かをみつきたい。今回は39度の熱を出し、しんどい思いをしたけれど、そんなこともぶっ飛ばしてくれるくらいアフリカは面白かった。遠い遠い土地ではあるけれど、私たちはもう少しアフリカにも目を向けてもいいと思っている。



註1:もとピグミー族のメイヤー。医者。現在も、ピグミー族の教育など様々な事柄に援助をしている。Fondation Camerounaise pour la Promotion des pygmees 会長。e-dream-s 通信5-7月号「カメルーン・ピグミーとの出会い」(その1-3)参照。

註2:「カメルーンの降雨林の最初の住人は、おそらくアカ族(ピグミー族)だ。現在はごく少数しかいない。彼らの身長は120 cm から140 cm で、降雨林の環境によく適応している。彼らは狩猟採集民で、弓矢で捕った獲物の肉や皮革を、近隣のバンツー語系の人びとと、キャッサバ、バナナ、塩、槍の刃、衣類と交換する。」<ハザウェー(著)、星野次郎(訳)、1996年「目で見える世界の国々(36) カメルーン」国土社、p.41-42>が、実際は、移住生活をやめ、れんがで家を建てて移住しているピグミーも少なくない。

註3:ヤウンデにある Government High School Biyem-Assiの理科の先生。日本のJICAで働いたことがある。自称親日派。e-dream-s 通信5-7月号「カメルーン・ピグミーとの出会い」(その1-3)参照。

@aglance 教材作成・収集プロジェクトより

道面 和枝

さまざまな行事が集中する秋ですが、合間をぬって10月31日あたりの授業でハロウィーンの写真が使われた方もあると思います。私自身は当日が文化祭であったため、授業でタイムリーにハロウィーンを紹介する余裕がありませんでした。みなさんがどのように使われたか知りたいです。

最近、写真の提示の仕方を変えてみました。これまでは、回覧する時はプラスチックケースに入れ、班ごとにじっくり見せたい時は色画用紙に貼るなどしていましたが、理科の先生がラミネーターを購入されたので、さっそくラミネート加工してみると、意外と簡単できれいに仕上がりました。一旦作っておくと、繰り返し使えるので便利です。今までこんな便利なものを使おうとしなかったとは…。A3サイズまでラミネートできるので、これからは掲示用にも使ってみようと思います。

(1)「今週の使用例」について

@aglance の写真を授業で使用した例を紹介していますが、10月は実践が集まりませんでした。HPへの訪問者のために、「土曜日更新」の赤ランプを是非、毎週点滅させたいと思います。11月担当の方、よろしく願います。担当以外の方も、実際に使用した例があれば是非お寄せ下さい。

その際、中学校・高校の「使用例」として紹介されているものを実際に使ってみた「使用后」の報告があれば、より興味深いです。生徒の実態に応じて、このように提示したほうが効果的であったなど、写真を使った授業のコツのようなものが集まれば、より気軽に使えるようになるでしょう。

注意点

所要時間の明記：特に中学校では「週3時間」になったことから、所要時間が大きなポイントです。写真を使った授業に何分かかったかを書いて下さい。原稿チェックについて：提出する際に、もう一度よく自分の原稿をご確認下さい。単純な表記ミスから文章表現、写真番号の書き違いはないかなど、気をつけて下さい。英文については、可能な限りALTのチェックを受けて下さい。担当でも確認をしますが、まずは自己責任で。

提出先：各支部で、「今週の使用例」担当が決まっていますので、担当月の前の月末までに、各チーフに送って下さい。担当者でなくても、授業で使った報告は大歓迎です！その都度、各チーフまでお送り下さい。

(2)2学期分の使用例作成(中学校)について

2学期分の教科書3社の使用例を一挙公開しています。(NEW CROWNの3年とSUN SHINEは近日中にアップ予定)さっそく授業で使ってみましょう。

また、大勢の人が見るHPに間違いがあっては大変恥ずかしいことなので、使用例作成の際には、上の 注意点 と同様、まず自分で十分に原稿チェックを行なって下さい。よろしくお願い致します。

お知らせ

<@aglanceのサーバーを移転>

@aglanceでも告知しましたが、かねてよりの計画どおり11月1日から新サーバに移行しました。アドレス、使用法等は変更ありませんが、

- (1) 全画像 (中・大11,131個) の色調補正
- (2) 大画像の縦変更
- (3) 全オレンジ画面 (5,552ページ) の解説が長く上下にはみ出していたページの補正と長いキャプションの段落補正

などいくつかの改良を加えました。

が、実は新サーバへの移行の最大のメリットはコストです。現サーバのコストは今まで使っていたサーバの半分以下です。これは広島のエ-dream-s会員山本賢治さんの紹介で破格の安値で契約した結果可能となりました。 <辻>

* 教育用写真サイト"@aglance"のアドレスは、<http://www.aglance.org/>

< "ECAP Korea 2003" のテキスト編集の進捗状況 >

現在、第1稿のrewriteをお願いしていた元YMCA講師Gregg Kennerlyさんからの書き直し原稿が出来上がってきたところです。

出版のためにさらなる内容の検討と書き直しに取りかかりますが、今後の予定としては11月中には Gregg Kennerlyさんと井川顧問に私を加えた3人で推敲し英語原稿の決定稿を完成させ、英語版の完成を受け、12月中に日本語版を完成し、さらに注と図版

も準備し出版社との本格的な打ち合わせに入りたいと思います。

現在、各グループごとに分担したテーマについての注と図版、参考文献リストの準備に取りかかっています。2004年2月末の完成を目指していますのでご期待ください。

< 辻 >

< "ECAP 2004"実施に関して（理事会決定事項） >

「ECAP 2004」の実施に関して顧問提案があり（「e-dream-s通信」10月号に掲載）、その内容について理事に意見を求め集約した結果、理事会として以下のように決定しました。

（１）「ECAP 2004」は韓国・ベトナム両国での開催で準備をすすめる。

（２）イー・ドリームズとして、正式に実行委員会を発足させる。

実行委員会のメンバーは以下の通り。（敬称略）

・「ECAP Vietnam 2004」実行委員会（5名）：

井川実行委員長、山田、飯田、小関、岡田

・「ECAP Korea 2004」実行委員会（6名）：

井川実行委員長、塚本、稲川、富永、辰己、中川

ECAPはご存じの通り10年以上に亘るACROSSアジアツアーが発展したものです。その間訪れた国や参加人数こそ違いますが、その全てが成功し参加者およびACROSS e-dream-sの有形無形の大きな財産になったことは、みなさんご存じの通りです。この実績を見れば次回のECAPも成功することは明らかと断言していいでしょう。

何人かの理事および会員のみなさんから費用や参加人数についての不安があるとの意見を頂いていますが、12月のベトナム下見を受けて1月の理事会で詳細を話し合い、皆さんの不安を取り除き、できるだけ多くの会員がこの貴重な機会を逸することがないように努力して行きたいと思います。

< 辻 荘一代表理事 >

<ワインプロジェクト2003>

先日、e-dream-s mail 11月5日号でお知らせしたとおり、ワインのプレゼント付きの賛助金を募ります。賛助金の額は一口、15,000円、4,000円、3,000円です。1口15,000円の分には5本のワイン、4,000円の分には赤のスパークリングワインか赤の辛口、3,000円の分にはフルーティな赤、白の辛口、フルーティな白のいずれか1本をプレゼントします。詳しくは、中川副代表理事から11月6日に送付された「“ワインプロジェクト2003” 賛助金のお願い」をご覧ください。文書がない方は、塚本美紀 (tsukamoto@e-dream-s.org) までお知らせください。文書をお送りします。皆様からのお申し込みをお待ちしています。 <塚本>

編集後記

今はもう定期的に通っていないのだが、欠席者がいて空きがある時などたまにワイン教室に行くことがある。10人ほどでテーブルを囲み、フルコースのお食事をそれにあつたワインと一緒にいただく会である。そこで新しい参加者があつた場合は、全員が自己紹介することになっている。そこでの自己紹介の決まりは、フルネームで自分の名前を名乗ること、職業について語らない、の二つである。「ひびき高校で英語を教えています塚本です。」とつい言ってしまいがちだが、それだと面白くないので、もっと自分のことを語りましょうという主宰者の思いによるものだと思う。自己紹介する際、職業に触れないとなれば、「仕事以外の私」を意識せざるを得ない。「仕事をする私」も大切だが、「仕事以外の私」も大切である。e-dream-s といい、ワイン教室といい仕事以外で楽しめる場所があることを幸せだと思う。(塚本美紀)